

1) 南西諸島の海洋民俗に関する調査

板井英伸¹

キーワード：海洋文化、民俗調査、船漕ぎ儀礼、民俗誌、地域連携

1. はじめに

本事業では南西諸島やオセアニア地域の海洋文化・漁撈文化等、海にまつわる民俗に関する基盤的な調査研究を行うとともに、海洋博公園内における「海と人との関わり」に関する展示や普及啓発の充実を図ることを目的に実施した。(表-1)

2. 調査概要

新型コロナウイルス感染症の蔓延状況および各地の儀礼の実施状況を勘案しつつ、安部・嘉陽地区での調査は中止し、それ以外の沖縄本島内で開催された7件の儀礼に参列し、実施状況と変容について現地調査を行った。一方、多良間島、久高島など離島での現地調査は中止した。

今年度は奥武島、喜屋武、糸満、北谷で「ユッカマヒのハーリー」(写真-1, 2)、奥武島、糸満において旧正月行事(写真-3)、また本部町備瀬のシヌグ舞(写真-4)、それぞれの実施状況と変容について現地調査を行った。加えて備瀬のシヌグ舞については、都留文科大学のスタディ・ツアーの一環として、現地を案内しつつ共同で調査を行った。

結果、コロナ禍において娯楽色の強い儀礼の一部が中止あるいは簡素化されるなどの変化が確認された一方で、宗教色の強い儀礼についてはその形態を維持するなどの事例を確認した。

3. 調査成果の利用

調査結果については海洋文化館での一般向け講座(海洋文化講座)に活用したほか、現在執筆中の論文「コロナ禍と沖縄の民俗(仮)」の基礎資料として活用する。また、調査時に撮影した写真、映像データについては、各地域の漁協、青年会、公民館に提供した。

これらの成果は、引き続き海洋文化館や美ら島自然学校、沖縄県立博物館・美術館(おきみゅー)などの財団が管理する施設での催事や展示に活用し、施設への誘客を促進するとともに、文化財化や新たな利用方法の提案などを通して地域の伝統行事の継承に寄与した。

4. 外部評価委員会コメント

奥武島、喜屋武、糸満、北谷でハーリーや正月行事、備瀬ではシヌグ舞の調査を行い、コロナ禍における伝統行事・儀礼の実態を把握し、一部の行事は簡素化傾向にあるが、宗教色の強い儀礼はその形態を維持しており、「カミ観念」の持続性が見られるという指摘は注目される。各調査地で撮影した写真や映像データは現地還元し、伝統行事の維持・継承に寄与した。また、調査資料に基づいて海洋文化館で講義を行い、伝統行事の継承の重要性を喚起した点は評価できる。(須藤顧問：堺市博物館 館長)

コロナ禍という困難な状況に対応し、また外部の大学の調査を支援するなどの努力が見いだせる。コロナ前後の変化の記録は学会全体にも寄与するであろう。(後藤顧問：南山大学 教授)



写真-1 奥武島のハーリー

¹ 普及開発課



写真-2 北谷のハーリー



写真-3 奥武島の旧正月



写真-4 備瀬のシスグ

表-1 令和4年度調査地一覧

調査地	行事名 地域名 (漢字表記)	時期		特徴	協力依頼先		備考
		旧暦	新暦				
久高島	ハチグウチマッティ (八月祭り)	旧八月十日	9月5～7日 (月～水)	青年が追込網漁で供物を漁獲。 (動研と共同・2名で実施)	久高公民館 (西銘忠区長)	沖縄県南城市知念字久高249-1 電話:080-2749-0241(区長)	コロナウイルス感染症 蔓延状況により調査 中止
本島中部	ユッカスヒー (四日の日)	旧五月四日	6月2日(木)	漁長による豊漁・海上安全祈願 (筑文研と共同・2名で実施)	調整中	調整中	調査実施。
多良間村	スツウブナカ (不明)	旧四・五月壬辰 (みずのえたつ)	6月8日(水)	青年が話・網漁で供物を漁獲。	ふるさと民族 学舎館	沖縄県多良間村仲筈1098-1 電話:0980-79-2223	コロナウイルス感染症 蔓延状況により調査 中止
名護市 久辺地区	久志の豊年祭	旧七月十六日	8月13日(土) (前後の日曜)	来訪神儀礼 (ミンジョーガナシ)	美ら島自然学校を拠点とした調査※		コロナウイルス感染症 蔓延状況により調査 中止
	辺野古のアシバ レー (群祇い)	旧四月吉日 (休日)	5月15日(日)頃	ハーリー			コロナウイルス感染症 蔓延状況により調査 中止
本部町	備瀬のシスグ (シスグ舞)	旧七月二十五 日	8月22日(月)	海抜からの神女による歌舞巡行	備瀬自治会 (兼次静夫区 長)	沖縄県国頭郡本部町字備瀬457 電話:0980-48-2371	規模を縮小し、関係者 のみで実施。

(ほか安部・嘉陽地区、本部町内の行事については適宜実施)